

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200343		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	グループホーム 天の花		
所在地	岐阜県海津市平田町仏師川461番地		
自己評価作成日	令和8年2月24日	評価結果市町村受理日	令和8年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2172200343-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和8年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天の花は、医療と介護など専門スタイルがお互いに協力し、利用者があんしんして暮らせるよう日々努力しています。カンファレンスも定期的に開催し情報共有に努めています。看護師も常駐し、在宅医療専門医が往診に来ていただけるため、医療的管理が必要な方も安心してご利用いただけます。暮らし慣れたところで最期の時を過ごせるような場所でありたいそう考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人社団を母体とした事業所は、利用者が安心して過ごすことができるよう、医療と介護の連携で支援している。施設長は職員と地域の会議・研修・活動に積極的に参加し、地域と交流しながら、協力体制の強化に取り組んでいる。季節毎の花見、夏祭りやクリスマス会等、様々な行事を実施し、利用者が季節を感じられるよう工夫している。事業所の中庭で、チャボや地鶏を飼育しており、利用者の癒しにもなっている。看取り期は、医師と看護師の指導の下、家族の協力を得ながら、共に利用者に寄り添い穏やかな時間を過ごせるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のフナクリ理念の唱和と1日の出来事の共有をしています。また、何かあれば早急に報告・連絡し引き継ぎを心がけています。※毎月、理念に対して再認識しています。	法人理念と事業所理念、ユニットごとの目標を掲げ、全職員の意識強化を図っている。毎月の全体会の際に、職員全員で理念と目標を唱和し、正しく理解しながら実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事ごとや清掃活動に積極的に参加しています。 ご近所の方からお声がけや野菜の差し入れなどもあり、顔の見える関係が構築されています。	自治会に加入し、地域の祭りや清掃活動に参加している。また、中学校や特別支援学校の職場体験を受け入れており、就職に繋がった事例もある。回覧板にて認知症カフェの開催を伝えるなど、毎回、多くの参加者が訪れ、交流することが出来ている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	天の花の取り組み、外部評価、事故報告、指導調査などの報告やお悔やみなどのお話も行っています。 天の花便りも定期的に郵送し、活動報告も行っています。	隔月開催の運営推進会議には、行政や自治会長、民生委員、家族等の参加を得ている。行事報告や予定、事故報告、事業所の取り組みについて説明し意見交換を行っている。家族にも運営推進会議案内を送っており、参加も多い。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症カフェ、キャラバンメイト連絡会、認知症施策推進、地域在宅医療連携会議、海津市ケア向上連絡会(役員)などで地域包括、高齢介護課の担当者と常に情報や取り組みについて情報共有しています。	施設長は、市の認知症施策推進やケア向上連絡会、地域在宅医療連携会議等、様々な場で役割りを担いながら、協力関係を築いている。困難事例については、地域包括支援センターの助言を得ている。認知症カフェのチラシや報告書は行政窓口へ持参している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月ごとに継続して行っています。 事例検討会なども行い、スタッフからの意見なども参考に取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月ごとに実施し、研修も行っている。「帰りたい」と言う利用者の声に耳を傾け、原因について考え、どのように対応すべきかを話し合っている。施設長が講師となり、新しい認知症感について学び、身体拘束をしないケアを継続している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を開催しています。 虐待防止に関する指針の読み合わせも行い再構築を目指し取り組んでいます。	定期的に虐待防止委員会を開催し、研修も行っている。日々のケアを振り返り、事例を挙げながら不適切なケアと適切な対応方法について学んでいる。「慣れ」から起こる無意識なケアや行き過ぎた対応を見過ごすことなく、全職員が虐待について正しく認識し、防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度などの研修があれば、参加し、全体会議の中で年に1度話し合いが持てる場を提供しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明をしっかりと行い、同意を得ていもう。改定や算定要件の追加などは、その都度説明し同意署名、承諾書などいただき納得を得ています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時や推進会議などの中で意見や要望を聞いています。	利用者の様子や写真を掲載したホーム便りは隔月に発行している。また、利用者の普段の状況については、担当者がメッセージを添えて送付し、LINE配信希望の家族へは、臨機応変に利用者の様子を伝えている。家族の意見や要望は、面会時やSNSを通して把握し、運営に活かしている。	家族アンケートでは、満足度の高さが感じられる。今後も、事業所の支援が、利用者と家族の懸け橋となれるよう、絵手紙や年賀状など、利用者が直接、家族に送れるよう支援するなど、新たな工夫に期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月 カンファレンス会議以外にもスタッフ面談を2回/年実施しています。積極的に現場の声に耳を傾けながらサービスの質の向上に努めています。	年2回、全職員のアンケートを実施している。個人面談では、直接、職員の意見や要望を聞く機会としている。また、毎月のカンファレンスを含む全体会議の場でも、職員の声を受け止め、日々のケア方法や運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	各スタッフがやりがいを持ち楽しく働ける職場づくりになるよう内部研修や就業環境の整備に努めています。 ※生産性向上委員会も開催予定でテクノロジーの活用により、より良い職場づくりを目指します。	職員が働きやすいよう、適切に就業環境を整備している。休憩時間が確保され、休憩室には、シャワー室やトイレもあり、ロッカールームは男女別に設けている。介護ソフトやITC機器の導入を検討し、より効率良く、職員の介護負担を軽減する環境作りをめざしている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に声かけ不安・ストレス等はないか？確認しています。 表情や勤務姿勢など常に観察して、その都度面談を行っています。	事業所内のOJTも含め、各研修会を開催している。施設長が、職員の力量に合わせて、外部研修を選んでいる。受講した職員が報告書の提出とカンファレンス会議で他の職員に伝え、研修内容を共有している。また、課題を挙げて意見交換しながら、人材育成に繋げている。	内部研修の際にも、伝達講習を担う機会を作り、さらなる自己研鑽とスキルアップに繋げたい。また、研修報告や資料には、職員の閲覧確認のサイン欄を設けたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括、社会福祉協議会の方と来所していただき交流を行っています。 認知症養成講座なども行い、他の施設の関係者とも交流があります。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で、なじみの関係性が出来るよう支援しています。いつもと変わらない関わりの中で業務的な関わりをしないよう心がけています。 逆に馴れ馴れしすぎる対応も配慮しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを把握して、なかなか本人の希望に沿ったケアは行えていないように思います。そのひとらしい暮らしの実現をめざしひとりひとりに話しています。	日々の生活支援の中で思いや意向を聞き、寄り添う支援に努めている。意思表示が困難な場合は、普段の様子や表情、生活歴から推測している。家族からも情報を聞き、利用者が望むことを少しでも叶えられるよう、職員間で話し合っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議やご家族様の面会時などに近況報告し話し合いの場を設けるようにしています。 また、現状で出来るケアや今後、起こりうるリスクについてもお話するようにしています。	担当職員が定期的にモニタリングを行っている。本人の思い、家族や職員の意見、医師や看護師など多角的な視点から検討しながら介護計画を作成している。月1回のグループカンファレンス、毎朝のミニカンファレンスで情報共有している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにその日の様子を記入しています。 iPadをみれば分かるよう工夫しています。また、毎朝、ミニカンファレンスを実施し日々の実践に生かしています。	申し送りノートは手書きで記述し、毎日の個別記録やミニカンファレンスの内容は、タブレット端末に入力している。毎月のリーダーカンファレンス、事故報告についても、伝達漏れないよう適切に情報共有し、日々の支援に活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに対応できるような工夫をしています。多機能的な関わりが課題です	利用者のニーズを把握しながら、喫茶店や公園に出掛けている。コーヒー代や出先でのおやつ代は事業所が負担している。医療機関への送迎も実施している。	

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や児童や生徒さんとのふれあいを積極的に取り組むことで社会交流が図られています。近隣の図書館・文化祭・お千代保さん・左義長など地域の施設や行事に参加しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の存在は大きく利用者様の安心に繋がっています。希望された時や必要に応じた医療を受けられるよう配慮しています。	定期的に協力医の往診があり、利用者の状態に応じて、眼科や歯科の往診を受ける事もできる。看護師が職員として配置されており、24時間の連絡体制があり、緊急時にも、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は定期的にお見舞いに行き、病棟看護師や看護師長との連携を図っています。 また、看護要約などの情報提供を行い、切れ目のない関わりが出来るよう心がけています。	入院時には、事業所の看護師がサマリーを提供して医療機関と連携を図り、利用者が安心して治療を受けられるよう支援している。 退院後も、不安なく日常生活が送れるよう、事業所の受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の方や看取り体制に入られる方に関しては本人、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、お互いが納得、同意できるよう説明しています。 ご本人の安楽を優先して考えています。	契約時に、本人・家族に看取りに関する説明を行っている。利用者の状態変化があった場合は、医師、看護師、職員がチームとなり、家族の意向に沿って対応している。終末期には、医師と看護師職員、看取り経験のある職員等により、不安なく利用者をケアできる体制がある。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息などの事故や急変が起きた場合には速やかに対応⇒報告が出来るよう心がけています。また、カンファレンスなどで急変時の対応の勉強会を開いています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施しています。 夜間想定訓練も実施しました。 災害時の行動の想定なども話し合い進めていきます。	夜間想定訓練を行い、利用者も避難場所まで移動する訓練を実施している。緊急時のトイレ利用も試み、適切に対応できるとし、職員連絡網、安否確認アプリなど、課題の有無も確認している。備蓄は1週間分を備え、厨房職員が管理している。	前回の改善点でもあった、災害時用の防災頭巾やヘルメット等の購入、安心安全を考慮した防災備品の導入など、速やかな着手に期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気なくかける言葉のきつさや相手を傷つける言い方には注意していますが、プライバシーを損ねかねない場面も見受けます。みんなで確認し、注意しあえる関係作りも必要だと思っています。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、傾聴を基本に思いやりのある声掛けを心がけている。不適切ケアに気づいた際には、管理者が速やかに対応している。排泄や入浴支援では、同性介助の希望に応じ、羞恥心に配慮した対応を心掛けている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のニーズを日常生活会話からさりげなく聞き出し、ケアプランに載せて実行できるよう工夫しています。自己決定できる環境作りも大切だと感じています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせたケアを心がけていますが、職員側の都合で支援してしまう時があります。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなどは、事前にアセスメントし提供していますが、ADLの低下で食事形態を変更しています。厨房での調理のため片付けを手伝っていただいています。	地域住民からの差し入れ野菜も活用しながら、毎食、職員手作りの食事を提供している。利用者と職員が食卓を囲み、賑やかな食事風景である。時には、利用者もホットプレートで焼きそばやホットケーキなど、おやつ作りも楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療的な管理のもと、食事量・水分量を個別に配慮しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の生活習慣に合わせて、フロア内や居室での口腔ケアの実施はできています。必要に応じて訪問歯科の利用が行えます。	居室に洗面台があり、毎食後の口腔ケアが習慣化できている。利用者個々の状態に応じたサポートで、口腔内の清潔保持に努めている。義歯は毎日消毒している。歯科医による訪問診療や、歯科衛生士による指導・支援を受けている。	

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	身体機能を評価して、可能な限りトイレでの排泄を促しています。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の生活リズムなどに配慮しバイタルサインの測定値を確認・ヒアリング等による体調確認、意向確認を行い入浴しています。曜日を決めて温泉にも入ってもらい楽しい時間作りに努めています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、就寝は本人の思いを確認しながら行っています。生活リズムを整える方、起きていると負担のある方に関しては、離床や休息を促しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師にて行っています。服薬に関しては、準備された薬を2名の介護職員が氏名・服用時間を確認し予薬を行っています。薬の影響・副作用など理解が必要なため看護師から説明を受けています。	薬剤管理は看護師職員が行っている。服薬支援は複数職員で対応し、毎回、利用者が飲み込むまでを確認し、飲み忘れや誤薬、落薬防止に努めている。薬の変更時は看護師が職員に説明し、利用者の様子を観察し、看護師や医師の指示を仰いでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを把握して出来ることなどをアセスメントし、行ってもらってます。日常生活の中で出来ないことは、さりげなく職員が行い、不快のないよう努めています。	洗濯物たたみ、食事準備の手伝い、居室清掃など、利用者の出来る事や得意な事で、役割が持てるよう支援している。夏祭りには法被や浴衣姿で楽しみ、クリスマス会は近隣の園児を招くなど、利用者の笑顔と楽しみにつなげている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により散歩等出来るだけ行うよう支援しています。家族が来所され外食や中央ホールでの団欒での食事など施設をオープンにしてその人の思いに寄り添える支援をと努めています。	食材の買い出しの際には、利用者も一緒に行ったり、知人に会いに喫茶店に行く人もある。季節の花見にドライブを兼ねて出かけた、近隣の堤防や公園にも出かけている。年間外出計画や毎月の行事担当職員を決めて、支援を実施している。	

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所にあたり、今までお金を所持していた利用者が突然お金が持てないことは、とても辛いとです。 その人に応じて金銭を管理してもらってます。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて随時対応しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節感が味わえる物や飾り物そしてアロマオイルで臭覚の刺激。 利用者が心地よく暮らしてもらえるよう心がけています。	地元の木材を使用し、独特な形をした建物である。中央ホールは天井までの吹き抜けで、明るく個性的な共用空間となっている。適切な温湿度管理と換気を行い、清潔で居心地の良い環境作りを行っている。利用者は、中庭の放し飼いのチャボや地鶏の様子を眺めることができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が心地よく過ごしてもらえる環境作りを心がけています。また、気の合った利用者同士で会話ができる場の提供に努めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族の思いで馴染みのある物を持ってきてもらい落ち着ける空間作りができるよう心がけ工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の残存能力をアセスメントして安全・安心に日常生活が送れるよう支援しています。 季節感の味わえる花や飾り物や食物も施設周りに植え実を収穫してもらってます。		